

“鎌倉楽しむ会”
“令和5年盛夏”

京橋～銀座～有楽町～

静嘉堂文庫美術館の散策

- ◆ 開催日 : 令和5年7月22日(土)
- ◆ 集合場所 : 地下鉄京橋駅銀座寄り改札口
- ◆ 集合時間 : 午前10時00分
- ◆ 解散時間 : 午後2時30分
- ◆ 参加費 : 300円(資料代、保険料含む)
- ◆ 飲食費・交通費・拝観料などは個人負担

地下鉄京橋駅／大根河岸跡／歌舞伎発祥の地／京橋の親柱／煉瓦銀座の碑
／江戸ほうき展示館／銀座湯／奥野ビル／ヨネイビル／銀座発祥の地／
／龍光不動尊(松屋)／出世地藏尊(三越)／和光／セイコーミュージアム
／銀恋の碑／燈臺(とうだい・北村西望作)／南町奉行所跡／【 昼食 】
／ゴーガイル／日比谷公園・江戸城の石垣(眺望)／静嘉堂文庫美術館(解散)



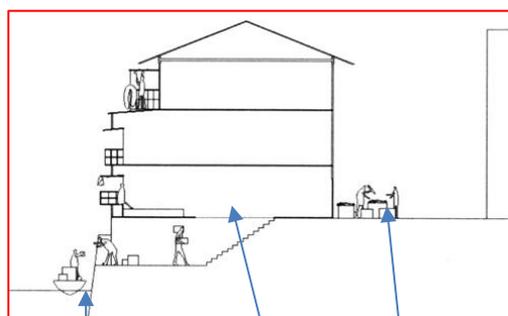
1, 京橋大根河岸青果市場跡



- * 江戸時代、京橋北詰西側の河岸地は、大根を中心とした野菜のにあげば荷上場で、江戸市民に新鮮な野菜を提供する「市」が立っていました。
- * この大根河岸は、関東大震災まで続いたが、震災後の昭和10年（1935）に旧築地市場に移転しました。



当時の京橋川の荷上場と三階の問屋の家



京橋川の荷上場・問屋の家・卸売り店

2, 江戸歌舞伎発祥の地



- * 寛永元年（1624）、猿若勘三郎（初代中村勘三郎）が、中橋南地（現在の京橋一丁目周辺）で、猿若座（後の中村座）の櫓（やぐら）をあげたのが、江戸歌舞伎の始まりという。
- * その後、江戸時代の後期、幾多の変遷を経て、浅草に移転したが、明治22年（1889）には、木挽町に（現在地）歌舞伎座が開場し、以来120年以上にわたって歌舞伎の興行が続いています。

3, 京橋の親柱



- * 京橋の創建は、慶長8年（1603）に架けられたといわれています。江戸時代は木橋だったが、明治8年（1875）に石造アーチ橋、明治34年（1901）には鉄橋となりました。大正11年（1922）には拡張工事が行われてアール・デコ様式の橋に架け替えられました。
- * しかし、戦後になって、高度成長期の昭和38年（1963）～40年にかけての京橋川の埋め立てに伴って撤去されました。
- * 現在、中央通りの歩道に石造親柱が3基残されて、このうち、擬宝珠（ぎぼし）のある2基の親柱は明治8年にアーチ橋になったときのもので、{京橋}と「きやうはし」が彫られています。
- * また、照明設備のある親柱1基は大正11年の架け替えの時のもので「大正十一年十一月成」の銅板プレートがついています。

4, 煉瓦銀座之碑



- * 明治5年(1872)に銀座は大火に見舞われ焼野原となった。すぐに、銀座復興計画が練られ、木造から煉瓦を使った街作りが始まった。
- * それに伴って、明治7年末には、文明開化の象徴ともいえる85基のガス灯が点灯されました。
- * 京橋の親柱の隣にある石碑は、明治初期に日本の文明開化のシンボルであった煉瓦建築が立ち並んだことを記念したものです。
- * 煉瓦街を照らしたガス灯が復元されています

5, 江戸ほうき展示館



- * 昔懐かしい「ほうき」が展示されています。開設しているのは京橋で、天保元年(1830)創業の「白木屋伝兵衛」商店。江戸時代後期から「ほうき」を作り続けてきた老舗です。
- * 店内は、ほうき草の香りがいっぱい、なにか懐かしい癒された気分になるようです。ショーケースに納められた三分の一の大きさのミニチュアほうき、ほうきのコレクションも見事です。一見の価値ある展示館です。

6, 銀座湯



- * 銀座一丁目にある昭和60年6月開業の大衆銭湯の「銀座湯」です。
- * 銀座には、もう一軒老舗の「金春湯」があり、貴重な日本の文化です。

7, 奥野ビル



- * 昭和7年(1932)の歴史的建造物。現在はアートなビルとして注目されている奥野ビルです。
- * かつては「銀座アパートメント」と呼ばれ、銀座屈指の高級アパートだった。民間住居初として、当時話題となった手動式エレベーターは、現在も現役で可動している貴重なものです。

8, ヨネイビル



- * 昭和5年(1930)、機械類の輸出入をする株式会社ヨネイの本社ビルとして建設されました。東京都選定歴史的建造物に指定されています。
- * 内装・外装、外観ともに改装され、当時の印象とは大きく変わってしまいましたが、大理石を贅沢に使った一階玄関ホールは、昔の趣を残しています。一階壁面は中世ロマネスク風のねじり柱を取り付けた個性的なアーチ窓が並び、昔の面影を今に伝えています。

9, 銀座発祥の地



- * かつて「銀座」は地名ではありませんでした。江戸時代、金を扱う「金座」に対し、銀貨の鑄造・取締りを司ったのが「銀座役所」で、慶長6年(1601)、京都の伏見に初めてつくられました。
- * 慶長17年(1612)に、駿府(現在の静岡)にあった銀座役所が江戸の新町替町(現在の銀座2丁目)に移設され、ここで銀貨の鑄造を行うようになった。このため人々は、この付近を「銀座」と呼ぶようになった。
- * その後、寛政12年(1800)に銀座役所は、かつての蛸殻町(かきがらちょう・現在の日本橋人形町一丁目)へと移設され、明治2年(1869)に新政府の造幣局が設置されるまで存続したのです。
- * なお「銀座」の町名が正式に採用されたのは明治2年からのことでした。当時の銀座は、京橋から銀座四丁目までの、現在の中央通りの両側付近だけであった。そして、四丁目までだった八丁目まで拡大されるのは昭和5年(1930)のことであった。
- * 戦後の焼け跡からいち早く復興し、有名百貨店が次々に進出するなど世界に名だたるメインストリートへと発展。さらに全国各地に「〇〇銀座」が誕生し、銀座は繁華街の代名詞となっていた。
- * こうした繁栄を記念し、銀座通連合会は昭和30年(1955)「銀座発祥の地」と題した記念碑をかつての銀座役所跡地(現在の銀座2-7先)に建立したのです。

10, 龍光不動尊



- * 松屋デパートは、昭和4年(1929)、鎌倉時代の名匠による尊像を、高野山龍光院(こうやさんりゅうこういん)から遷座してお祀りしました。
- * 諸願成就・家内円満・商売繁盛などにご利益があると言われています。
- * また、「龍光」が「流行」に通じることから、ファッション関係者も多く参詣しています。

11, 銀座出世地蔵尊



- * 三越銀座店の屋上に安置されている地蔵尊です。
- * 明治から昭和初期にかけて、銀座出世地蔵尊の縁日は多くの人出で賑わったという。出世地蔵尊の由来は不明な点が多いが、一説によると、文久元年（1861）、三十間堀一丁目先で地中から地蔵尊が掘り出され、そこから「世の出た」ために、この名称がついたとも言われています。
- * 地蔵尊は石造で、関東大震災と戦災により2度も瓦礫の山に埋もれたが、その都度地元の信徒によって見つけ出され、祀られています。強運の地蔵尊です。
- * 地蔵尊の本体の痛みが激しいため、現在は三越銀座店の9階銀座テラスの六角堂内に安置されています。毎年10月には「銀座八丁神社めぐり」が行われ、大勢の人がこの地蔵尊に詣でます。
- * また、三井家の守護神「三囲神社」の分社も、大切にお祀りされています。

12, 和 光



- * 銀座のランドマーク。銀座四丁目の角に本社を移した服部時計店（現在のセイコーホールディングス株式会社）は、明治27年（1894）に初代時計塔を完成させました。
- * 二代目の時計塔が完成したのは昭和7年（1932）。関東大震災の影響で工事は大幅に遅れたが、耐震性を考慮し、天然石を使用した建物が誕生したのです。
- * 昭和22年（1947）、服部時計店の小売り部門が独立して「和光」としました。
- * 時計塔をもつビルは、進駐軍のPX（軍人専用の物品販売施設）として接收されていたが、昭和27年（1952）には接收は解除され、再び、商業施設と社屋としてスタートを切ったのです。
- * 当初、時計塔の大時計はドイツ製だったが、昭和41年（1966）にセイコー・クォーツに変更されました。
- * 鐘の音は、正時になる45秒前からウエストミンスター式チャイムの音が鳴り、その余韻のあとの響く第一打が正時をお知らせしています。

13, セイコーミュージアム



- * セイコーミュージアムは、昭和56年（1981）、創業100年事業として「時と時計」に関する資料・標本の収集と保存を目的とする資料館として向島に設立されました。
- * 創業者・服部金太郎生誕160周年を迎えるにあたり、令和2年（2020）8月、セイコー発祥の地である銀座に移転してきました。
- * 現在は事前予約制ですが、団体としては不可です。

14. 銀恋の碑



- * 大高ひさを作詞・鏑木創(かぶらぎはじめ)作曲による歌謡曲『銀座の恋の物語』は、昭和36年(1961)、石原裕次郎と牧村旬子のデュエットで大ヒットしました。
- * この功績を後世に伝えるため、平成2年、銀座通り連合会・テイチクによって銀座に歌碑が建立されたのです。
- * 碑の左右に座席が設置されており、碑を挟んで記念写真を撮ることができるようになっています。

15. 燈臺(とうだい)



- * 長崎市にある「平和祈念像」の作者として知られる彫刻家で文化勲章受賞者の「北村西望」が制作した銅造彫刻です。兜(かぶと)を身につけた青年が松明(たいまつ)を持ち、獅子(しし)を従えている力強い造形が見る者を惹きつける、
- * 完成は昭和6年(1931)で、同年開催された帝国美術院第12回美術展覧会に出品されている。
- * これを、昭和8年(1933)、関東大震災10周年の記念塔として数寄屋橋公園に設置されました。
- * 北村西望は石造の台座設計を行うとともに、台座にあるブロンズ製の鑄造銘板「不意の地震に不断の用意」なども制作している。
- * 彫刻とともに、この台座も区民有形文化財に登録されています。

16. 南町奉行跡



- * 時代劇で有名な名奉行の「大岡越前守忠相」が、享保2年(1717)～元文元年(1736)にかけて20年間南町奉行として活躍していました。
- * 奉行所の広さは約2620坪ありました。表門は現在のイトシアあたりにあり、西側は、有楽町駅脇のガードまで、南はマリオンとの間の道路脇まで、北は有楽町駅中央口までであった。
- * 敷地の東半分が役所で、あとの半分は自宅でした。
- * 表門を入ると正面は奉行所玄関となっていました。左手は時代劇に、よくでてくる「お白洲(しらす)」がありました。

17. ゴーガイル



- * 丸の内仲通りの有楽町近くに数年前にオープンした高級ホテル「ザ・ペニンシュラ東京」の7階の角にジッと仲通りを見つめている不思議な怪獣の姿が眺められます。
- * これが、魔除けの「ゴ－ガイル」です。以前の建物は石原裕次郎の結婚式も催された日活国際会館でした。その時から、「おーい、日本人よ！がんばれ！」とのメッセージを込めて設置されているという。

18. 日比谷公園と江戸城の日比谷濠



- * 左の画像は、天正18年（1590）に徳川家康が、初めて江戸城に入った時の略図です。太田道灌の作った（長禄元年・1457）江戸城は海に面していました。そして、日比谷は、海苔の栽培している遠浅の入り江（海）でした。
- * それを、神田山を削り取って、その土砂を使って日比谷入り江を埋め立て陸地にし、諸大名の屋敷地にしました。（徳川幕府が終わった時に、この屋敷地は明治新政府ができたとき、日比谷公園となりました。）
- * 徳川家康は江戸城を守るため大きな濠を作りました。その時、日比谷入り江を少し残し濠の一部としました。それが、目の前の濠です。
- * また、太田道灌の江戸城の防御は、すべて「土塁」でしたが、家康はこれを諸大名に負担させ「石垣」にしたのです。これが目の前の江戸城を守る石垣となっているのです。

19. 「静嘉堂文庫美術館」



- * 静嘉堂は、岩崎彌之助（1851-1908 三菱第二代社長）と小彌太（1879-1945）三菱第四代社長）の父子二代によって設立され、国宝7点、重要文化財84点を含むおよそ20万冊と6500点の東洋古美術品を収蔵しています。
- * 明治生命館は国指定重要文化財建築物です。

完